

記録についての参考文献

- 関 公一 (1941) 兵庫県産の天牛科甲虫.
昆虫界 9 (89):27.
- 金田 昌七 (1978) 淡路より未記録のカミキリ3種.
Parnassius (19):15.

オオサルハムシ 神戸市内で採集

(兵庫県甲虫相資料・283)

高橋 寿郎

オオサルハムシ *Chrysochus chinensis* Baly, 1859 は種名にあたるようにBaly氏によって北部中国産で1859年記載された種である。日本からは同じくBaly氏によって1874年に Hiogo (現在の神戸市) を記録されたのが始めてである。採集者は G. Lewis 氏である。この時 Lewis 氏によると山地にいる種であるとのコメントがついている。

Heyden 氏は1879年 Dr. Rein が本種をやはり Hiogo (神戸) で得ていると記録している。

ここで本種についての分類学的経緯を筆者所有の文献でみてる。

1874年に出版された Dr. Gemminger と B. de Harold 氏による甲虫目録に本種は出て来るが分布は “China bor Sibiria” とあって日本はふくまれていない。

Lewis 氏による1879年の “日本産甲虫目録” には勿論出てくるがこれには産地も分布もついていない。

Schönfeldt, H. V. 氏の “日本産甲虫目録” (1887) には出て来て産地は Hiogo のみになっている。

1914年のユンクのカタログには分布は Nordchina, Amur, Japan, Korea となっている。

土井久作氏は1927年の論文で南満州公主嶺及び朝鮮の花山, 京城からの記録を示されると共に記載もされているし詳しい解説をしておられる。

松村松年博士は1931年カラーで図説をされた。その解説には本州及び朝鮮に産する普通種にして甘藷の葉を食害するとされている。出現期5-6月とされ分布は本州, 九州, 朝鮮, 満州, 支那となってい

る。

中條道夫博士は1938年九州から記録をされ、その後朝鮮（1940, 1941, 1941）、大連（1942）から記録をしておられる。

Gressitt, Kimoto 両博士の“中国、朝鮮のハムシ”の論文（1961）には多くの産地が示されている。

中條道夫、木元新作両博士の“日本産ハムシ類分類目録”（1961）では分布として N. China, Manchuria, E. Siberia, Korea, Japanとある。

木元新作博士の“日本及び琉球のハムシ”論文（1964）では福岡での産が記録されている。

1978年出版された Kim 氏の“朝鮮産昆虫の分布地図”では本種がわりと朝鮮では広く分布していることを地図で示されている。成虫の写真も出ている。

1980年木元新作博士まとめによる“日本産甲虫目録”では分布は E. Siberia, China, Korea, Japan (Honshu, Kyushu)となっている。1985年の同博士による“検索表による日本のハムシ類（Ⅱ）”でも同じ分布になっている。日本産本属は1属1種であるがこの属のものは旧北区、東洋区、新北区に分布するとある。ごく最近出版された“極東ロシアの昆虫分類”（1992）の中にも検索で示されているが図など全くついていない（ハムシ担当は L. N. Mededev 氏）。

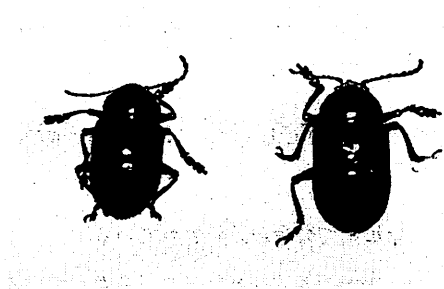
以上が大体筆者が所有している文献よっての本種の分類学的経緯である。その間原色による図説も勿論出版されている（1963, 1984）。したがって本種がどのようなハムシであるかということは良く知られていると思われるのだがいがいと日本における本種の分布状況が良くわかっていないような気がする。もっとも地方誌などを詳細に調べていないので大変不十分ではあるが日本ではあまり多く記録の見られないハムシのように思われる。

兵庫県下からの記録は始めに記した Baly, Heyden 氏の記録の2例以外山本義丸氏が氷上郡黒井町を記録されたのが知られているだけであった（1953, 1958）。

1984年蜂谷幸雄氏が加東郡東条町森で池畔をスイーピングして1頭を採集された（22-VI-1984）。この標本は蜂谷幸雄氏の御好意で御恵与に預かり現在県立“人と自然の博物館”に保管されている。この記録も今回初めて公表するものである。

さて1993年6月4日神戸市北区八多町屏風に蜂谷幸雄氏と調査に出掛けた際道路側の葉上に♂♀がいるのを見つけ手でつかまえた。田圃がすぐそばにあり道路との僅かな土手のような所であった。兵庫県下からの記録としても5番目のものであるがなんと云っても神戸市内からの記録としては114年ぶりのうれしい記録である。この種は原色でも図説されている通り（1931, 1963, 1984）ハムシとしてはやや大きく（体長9~10mm）しかも藍色の光沢のある美しいハムシで（中根博士の図は紫色の標本が図示されている。このような色彩のものもあるだろう）。野外で出会えば間違いなくわかるハムシだと思われる。

る。食草はイヨカズラ、サツマイモとなっている。もっと詳しく調べたらまだ他の個体も見つかるのでは
と思っている。このようなハムシが神戸市内に生息していることがわかり大変喜んで（6月10日再



オオサルハムシ *Chrysochus chinensis* Baly, 1859

神戸市北区八多町屏風にて1993年6月4日採集
左♂体長8mm 右♀体長9.5mm (右後肢欠損)

U.Hachitani Photo.

調査に行ったが見つからなかった)。その後1993年
7月15日午前11時30分頃神戸市北区藍那で田圃の水
はけの水路の所で蜂谷幸雄氏が再度1♂を採集され
た。同じ北区ではあるが距離としては若干離れてい
る。ここでも他にいないかと詳しく調べて見たが見
つからなかった。

現在本種の分布は日本では本州と九州とのみで国
外では朝鮮半島、シベリア東部、中国となっている。

末筆になって申し訳無いが写真撮影をして下さっ
た蜂谷幸雄氏に厚く御礼を申しあげる。

参考文献

- J. S. Baly (1859) Description of new species of Phytophagous Beetles.
Ann. Mag. nat. Hist. (3):4:125.
- J. S. Baly (1874) Catalogue of the Phytophagous Coleoptera of Japan,
with description of the species new to science.
Trans. ent. Soc. London 1874-Part. II:165.
- M. Chūjō (1938) Beitrag zur Kenntnis der Chrysomeliden-Fauna von Kyushu, Japan (2).
Bull. Umeno Ent. Lab. No 6:7.
- M. Chūjō (1940) Chrysomelid-beetles from Northern Korea. Mushi 13 (1):4.
- M. Chūjō (1941) Chrysomelid-Beetles from Korea(III). Trans. Nat. Hist.
Formosa 31 (209):63-64
- M. Chūjō (1941) First Supplement to the Fauna of Korea Chrysomelid-Beetles(1).
Trans Nat. Hist. Soc. Formosa 31 (219):458-459.
- M. Chūjō (1942) Chrysomelid-Beetles from Kwantung-Province. Mushi 14 (2):55.
- M. Chūjō & S. Kimoto (1961) Systematic catalog of Japanese Chrysomelidae.

- Pac. Ins. 3 (1):142 .
- H. Clavareau (1914) Coleopterorum Catalogus, W. Junk. Pars. 59.
Chrysomelidae :11. Eumolpinae:167.
- 土井久作 (1927) 朝鮮産葉虫科の研究. 動物学雑誌 39(466):330 .
- 土井久作 (1927). 南満州公主嶺附近より獲たる葉虫に就きて. 動物学雑誌 39(468):395 .
- Dr. Gemminger et B. de Harold (1874)
Catalogus Coleopterorum Tom. XI. Chrysomelidae (Pars. I):3399.
- J. L. Gressitt & S. Kimoto (1961)
The Chrysomelidae (Coleop) of China and Korea.
Pac. Ins. Monog. 1A:297-298.
- L. v. Heydan (1879) Die coleopterologische Aubeute des Prof. Dr. Rein in Japan 1874-
1875. Deut. Ent. Zeit. XXIII, Heft. II:362 .
- Lera, P. A, (ed.) (1992) Classification of Insects of Far East USSR. 3 (2) Coleoptera- 2
[R]: 564.
- Lewis, G. (1879) Catalogue of Coleoptera from the Japanese Archipelago (London):
28.
- C. W. Kim (1978) Distribution Atlas of Insects of Korea. Series, 2 Coleoptera:137,
pl. xv, f. CH04.
- S. Kimoto (1964) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands. IV.
Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ, 13(2):241-242.
- S. Kimoto (1980) Check-List of Coleoptera of Japan No18. Family Chrysomelidae
(Eumolpinae). p. 3
- 木元新作 (1984) 原色日本甲虫図鑑 (IV).
pl. 33, f. 20, P. 171-172. (保育社・大阪).
- 木元新作 (1985) 検索表による日本のハムシ類 (II). 昆虫と自然 20 (10):21.
- 松村松年 (1931) 日本通俗昆虫図説 第3巻 (甲虫之部). Pl. 17, f. 9, P. 75
(春陽堂・東京)
- 中根猛彦 (1963) 原色昆虫大図鑑 (II) 甲虫編. pl. 165, f. 22, P. 330 (北隆館・東京)
- Schönfeldt, H. V. (1897) Catalog der Coleopteren von Japan mit Angabe bezuglichen
Beschreibungen und der sicher bekannten Fundorte.
Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturkunde 40:178.

- 山本義丸 (1953) 兵庫県丹波地方の葉虫相.
兵庫生物 2 (3) :133 .
- 山本義丸 (1958) 兵庫県水上郡昆虫目録.
Natura 特別号, 水上の自然第3集 :97.

ヒラズゲンセイ三木市に産する

森 和 夫

ヒラズゲンセイ *Cissites cephalotes* Olivier は、トサヒラズゲンセイとも呼ばれる南方系の甲虫である。特異な体形、橙色の鮮やかな色彩と異臭、クマバチに寄生するという生態からしても珍虫に値する。南国である高知県においても稀なもののようなものである〔げんせい38.39 特集号 P. 57(1980) 参照〕。

今回、三木市において採集されたヒラズゲンセイを頂いた。三木市においては初めての記録であると考えられるので、下記のように報告する。

7月14日、神戸電鉄沿線の栄で開催された神戸生物クラブの例会に参加した際、植物関係を指導されておられる水野浩典先生と清水美恵子先生とに帰路ごいっしょになった。

この時、清水先生から「トサヒラズゲンセイを自宅で採集したが、四国や九州等の南方にいる珍しい虫ではないか?」とおっしゃってフィルムケースに入った1♂を出してこられた。全く思いがけない場所での珍種であり、採集された際の状況等も同った。

また、この個体の他にもう1頭採集し、御自宅に保管されておられるとのことであった。御自宅は、栄駅から2駅目で、すぐ近くであったため招待して頂いた。

もう1頭は♀であり、まだ生きていた。

また、採集された庭の環境も拝見させて頂いた。庭には溢れる程の種々の草木が植わっていて、採集された場所には、クマバチが吸蜜によく集まるといふ藤棚があった。

この藤棚は、丸太と竹を組み合わせたもので、よく見ると丸太の部分には丸い穴が開いていて、クマバチの巣であることがわかった。

御伺いした採集データは次の通りであった。